

NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（最終まとめ）

これからの学術情報システム構築検討委員会は、2014年7月開催の「第8回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」で、2020年に向けた目録所在情報サービス見直しの検討を要請された。それを受け現行の目録所在情報システム（NACSIS-CAT/ILL）の2020年に向けた軽量化・合理化を検討課題として設定し、これまで議論を重ねてきた。2015年7月には、実務に即した詳細な検討作業を進めるためにNACSIS-CAT検討作業部会を設置し、さらに議論を深めてきた。本文書は2020年以降の目録所在情報システム（以下、CAT2020¹⁾）に向けた議論の最終まとめであり、この結果をもとに、必要なシステムの開発および運用に関わるマニュアル等の整備を進めていく。なお、本委員会と国立情報学研究所は連携してCAT2020以降の目録所在情報システムについても継続して検討を行う。

I. これまでの検討経緯と今後の進め方

1 これまでの経緯

本格的な検討の開始は2015年のNACSIS-CAT検討作業部会設置後であり、その結果は段階的に公開してきた。現在は以下の文書を公開済みである。

- (1) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」²⁾
(2015年10月27日公開)（以下、「要点」）

「要点」では、「書誌作成機能」と「書誌利用(検索)機能」との分離、書誌作成機能であるNACSIS-CATの軽量化・合理化、NACSIS-ILLを含む書誌利用(検索)機能の強化等の方向性を示した。

- (2) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（基本方針）」³⁾
(2016年6月29日公開)（以下、「基本方針」）

「基本方針」では、「要点」で示した方向性で軽量化・合理化を実現するための要件を定めた。主なポイントは、「書誌作成機能」における外部機関作成書誌データの活用、書誌管理作業負担の軽減、レコード調整の廃止であり、その実現のためにVOLグループの繰り返し（いわゆるVOL積）の記述の禁止と書誌階層のフラット化による書誌作成単位の出版物理単位への変更、複数の外部機関作成書誌データのシステムによる事前登録を行うこととなった。それに伴い同一の資料に対する外部機関作成の複数の書誌データの存在の許容、所蔵のない書誌データの存在の許容、NACSIS-CATとは異なる目録規則で作成された書誌データの存在の許容等を決定した。一方で「書誌利用(検索)機能」では、機械処理による書誌データの照合を行い、重複する書誌データについて一括表示する等の対応を取ることで、また今回の見直しの対象は図書であり、雑誌は変更を予定していないことを明記した。

- (3) 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）」⁴⁾
(2017年2月8日公開)（以下、「実施方針」）

「実施方針」は、「基本方針」で定めた要件を元に、システム開発に必要な機能項目、運用方法お

よび移行計画を示したものである。ここで同一の資料に対して複数の書誌データが許容される状態を並立と新たに定義し、該当の書誌データの間の関係を並立書誌データと定義した。一方で書誌データの中身がほとんど同一で、違いが無視できる場合は重複書誌データとして統合処理の対象とした。書誌利用時には機械処理により、並立書誌データを統合的に見せる方針とした。

- (4) 「『NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）』からの変更について」⁵⁾
(2018年1月25日公開) (以下、「実施方針変更」)

実施方針の公開後、全国5か所で意見交換会を開催する等、NACSIS-CAT/ILL 参加館との認識の共有に努めた。システムによる複数の外部機関作成書誌データの事前登録については、目録作成作業の軽減が期待される一方で、同一の資料に対する複数の書誌並立による登録業務および ILL 業務の煩雑化への危惧が多数寄せられた。また所蔵のない書誌データが BOOK データセット (以下、BOOK) 中に多数発生することについても懸念する声が多かった。

それらを受け NACSIS-CAT 検討作業部会および国立情報学研究所で、システムベンダーも交えて対応策の検討を行い、技術的な目処が立ったことから一部の方針を変更した。その内容を示したのが「実施方針変更」であり、その要点は以下のとおりである。

- ・ 新たに PREBOOK データセット (以下、PREBOOK) を設ける。外部機関作成書誌データは PREBOOK にシステム的に事前登録する。この時、異なる外部機関由来の並立書誌データを回避するため、同じ ISBN の書誌データがすでに PREBOOK にある場合には、分類、件名等を抽出して、既存の書誌データにシステム的に追記するのみとする。
- ・ 目録業務に対して BOOK と PREBOOK のシームレスな横断検索環境を提供する。参加館が PREBOOK 中の書誌データに所蔵登録した時点で、該当データは自動的に BOOK に移行する。システム登録による所蔵のない書誌データは PREBOOK の中のみ存在することとし、ILL 業務においては従来通り BOOK のみを対象として検索を行う。

2 今後の進め方

公開済み文書とその要点は記述したとおりだが、本文書では CAT2020 移行日以降の運用における「目録情報の基準」の変更点を追加した。これらについては表 1 に示すスケジュールにより改訂される各関連マニュアル等で最終的にまとめられる。

2.1 各種マニュアル・文書の改訂

NACSIS-CAT/ILL の運用に関わる各種マニュアル・文書の整備・改訂は、従来から国立情報学研究所が行ってきたが、CAT2020 関連の文書についても、本文書に定める目録情報の基準の変更に沿って、国立情報学研究所が改訂を行う。具体的には図 1 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化関連文書について」のとおり、「目録情報の基準」および「コーディングマニュアル」は、2019 年度第 2 四半期までに改訂を進める。また、「クライアント作成のための技術資料」は図書館システムベンダー向けに、「セルフラーニング教材」は新規目録担当者向けに、変更点に関する補足資料を 2018 年度中に準備する。その他の NACSIS-CAT/ILL 関連マニュアルは、2019 年度以降に順次改訂する。

2.2 検討課題

CAT2020 以降の課題としては、多様なデジタルコンテンツへの対応や、新しい目録規則の適用、国立国会図書館等の他機関とのデータ連携等がある。また運用コミュニティの再検討も含めた運用モデルの再構築、デジタルコンテンツにも対応した業務フローの抜本的な見直し、人材育成体制の整備等、統合的発見環境のさらなる整備のため、体制等を見直しながら検討を続けていきたい。

なお、本文書の中で使用する語句について「用語集」を付した。必要に応じて参照してもらいたい。

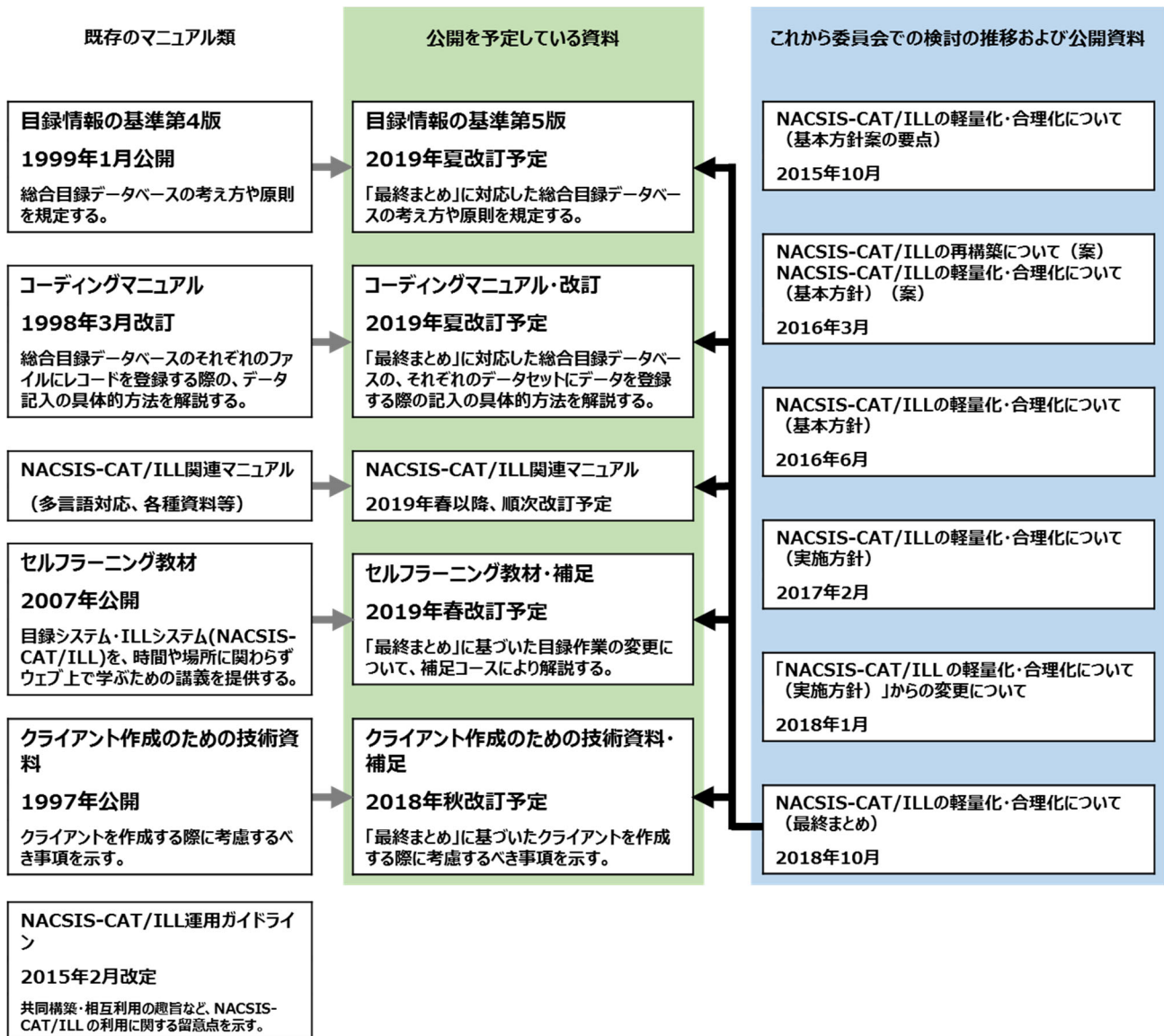


図1 NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化関連文書について*

表1 NACSIS-CAT/ILL の運用に関わる各種マニュアル・文書の整備・改訂スケジュール

フェーズ/年・期	2018年度				2019年度				2020年度			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
CAT2020	CAT2020開発				CAT2020テスト運用				CAT2020始動			
	クライアント作成のための 技術資料・補足		公開		セルフラーニング教材・補足		公開		CAT2020始動			
	目録情報の基準第5版				公開				CAT2020始動			
	コーディングマニュアル・改訂				公開				CAT2020始動			
	関連マニュアル				CAT2020始動				CAT2020始動			
CAT2020説明会/セルフラーニング				CAT2020説明会/セルフラーニング				CAT2020説明会/セルフラーニング				
CAT2020問い合わせ窓口				CAT2020問い合わせ窓口				CAT2020問い合わせ窓口				

注)

- 1) CAT2020 への移行日は 2020 年度の第一四半期を予定している。新システムの開発状況及び参加館の業務都合等を考慮して決定し、2019 年度のマニュアル類の改訂に合わせて通知を行う。
- 2) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針案の要点）」
https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20151027.pdf
- 3) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」
https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20160629.pdf
- 4) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）」
https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20170208.pdf
- 5) 『「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）」からの変更について』
https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20180125.pdf

*検討に関するこのほかのドキュメントについては、以下のウェブサイトをご覧ください。

<https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/>

II. CAT2020 以降の運用における「目録情報の基準」の変更について

1 変更のポイント

CAT2020 の運用にあたって、図書書誌データの作成方法を変更する。本節では変更のポイントを説明し、変更の詳細については操作の流れごとに本章 2 節以降で説明する。

ポイント① 事前システム登録

- ・ 従来の BOOK に加えて、PREBOOK を導入し、外部機関作成書誌データ (JPMARC, TRCMARC, USMARC, UKMARC, GPOMARC, DNARC) を、事前にシステム登録する。登録の際には ISBN 等を用いて同定処理を行い、BOOK または PREBOOK 上で同一と判定された書誌データは重複して登録しない。なお、登録をとりやめた書誌データからは OTHN, NBN, LCCN, GPON (以下、OTHN 等), SH, CLS を抽出し、登録済みの書誌データに自動的に追記する。なお、各種 MARC は参照データセットとして従来どおりの提供も継続する。
- ・ 外部機関作成書誌データをシステム登録するために、NACSIS-CAT で採用するものとは異なる目録規則で作成された書誌データの存在を許容する。

ポイント② 所蔵登録時の書誌データの自動移行

- ・ PREBOOK の書誌データに所蔵登録を行うと、当該書誌データは自動的に BOOK に移行する。

ポイント③ 出版物理単位での書誌作成

- ・ 書誌作成単位を「固有のタイトル」の有無に関わりなく、出版物理単位に変更する。
- ・ VOL グループの繰り返し (いわゆる VOL 積) の記述を禁止する。
- ・ 書誌構造リンク形成 (親書誌データとのリンク形成) を任意とする。

ポイント④ 書誌並立の許容

- ・ 同一の資料に対する複数の書誌データの存在を許容し、この時の書誌データの間を並立として定義する。

ポイント⑤ CAT2020 移行日前に作成の書誌データとの共存

- ・ 第 4 版以前の「目録情報の基準」をもとに CAT2020 移行日前に作成された書誌データは、CAT2020 移行日以降も BOOK に残し、所蔵登録も認める。既存の VOL グループの繰り返し記述された書誌データも残し、所蔵登録を認める。ただし、新たな VOL の追加は禁止する。
- ・ 既存の書誌データにある VOL グループの繰り返しを、一括して遡及的に分割することは行わない。

ポイント⑥ 参加館間のレコード調整の廃止

- ・ CAT2020 移行日前の図書書誌修正ルールにおいて発見館が修正できない場合は、新規に書誌データを作成することとし、参加館間のレコード調整は廃止する²⁾。
- ・ 重複書誌データを再定義 (書誌データの内容がほとんど同一で、違いが無視できる場合) し、これらを NII で統合処理する³⁾。

ポイント⑦ 並立書誌データの自動同定・グループ化 (RELATION テーブルへの登録)

- ・ 並立書誌データ間の関連付けを記述する RELATION テーブルを導入し、並立書誌データを相互に関連付けする。

ポイント⑧ 典拠データの自動リンク形成

2 外部機関作成書誌データのシステム投入時における事前処理

2.1 目的

この基準は、外部機関作成書誌データを図書書誌データセット(PREBOOK または BOOK)に投入する際の事前処理に適用する。これにより、同じ ISBN を持つ書誌データが図書書誌データセットに複数登録されることを防ぐとともに、ISBN 等をもとにして書誌データの同定を行い、既存データに不足している件名などの情報を追記する。

2.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降に、外部機関作成書誌データを NACSIS-CAT のシステム登録書誌データとして投入する際に適用する。なお、この処理はサーバー側で自動的に行われ、目録担当者の作業は発生しない。

2.3 システム登録書誌データとして投入する外部機関作成書誌データの範囲

JPMARC, TRCMARC, USMARC, UKMARC, GPOMARC, DNARC (予定) の書誌データのうち、ISBN が記入されている書誌データを対象とする。

2.4 システム追記

既存の書誌データに自動でフィールドを追加し、外部機関作成書誌データに含まれていた件名などの情報を記入することを「システム追記」と呼ぶ。システム追記を行う書誌データは、CAT2020 移行日以降に作成された書誌データとする。

2.5 事前処理の手順

2.5.1 外部機関作成書誌データにおいて VOL グループが繰り返されていた場合、VOL グループ毎に書誌データを作成し、次の処理に移る。例えば、VOL: pbk.と VOL: hbk.が VOL 積されている書誌データがあった場合、VOL: pbk.と VOL: hbk.の 2 つの書誌データを作成する。

2.5.2 外部機関作成書誌データと同定される書誌データが BOOK にある場合は、以下のように処理する。

2.5.2.1 OTHN 等, SH, CLS の各項目を文字列完全一致で比較し、同じものがなければシステム追記を行う。

2.5.2.2 CW は、項目が全くなければシステム追記を行う。なお、CW はこれまで「構成部分の著作単位を記述する」(目録システムコーディングマニュアル 2.2.6 C)とされてきたが、CAT2020 移行日以降は目次の記述も許容する。

2.5.2.3 BOOK の書誌データにシステム追記した場合は、PREBOOK に対しては何も処理しない。

2.5.3 外部機関作成書誌データと同定される書誌データが BOOK になく PREBOOK にのみある場合は、2.5.2.1 および 2.5.2.2 を行う。

2.5.4 外部機関作成書誌データと同定される書誌データ（CAT2020 移行日前に登録された書誌データを除く）が、BOOKにもPREBOOKにもない場合は、システム登録書誌データとしてPREBOOKに登録する。

2.6 その他

2.6.1 PREBOOKは、目録業務の際には検索対象となるが、NACSIS-ILLやCiNii Books等においては検索対象とはしない。

2.6.2 この事前処理とは別に、すべての外部機関作成書誌データは、参照データセットとして蓄積され、書誌作成の際の流用元として利用できる。

2.6.3 PREBOOKにある書誌データに対しては、参加館が書誌作成等の作業を行うことなく所蔵登録を行うことができる。所蔵を登録すると、当該書誌データは自動的にBOOKに移行する。

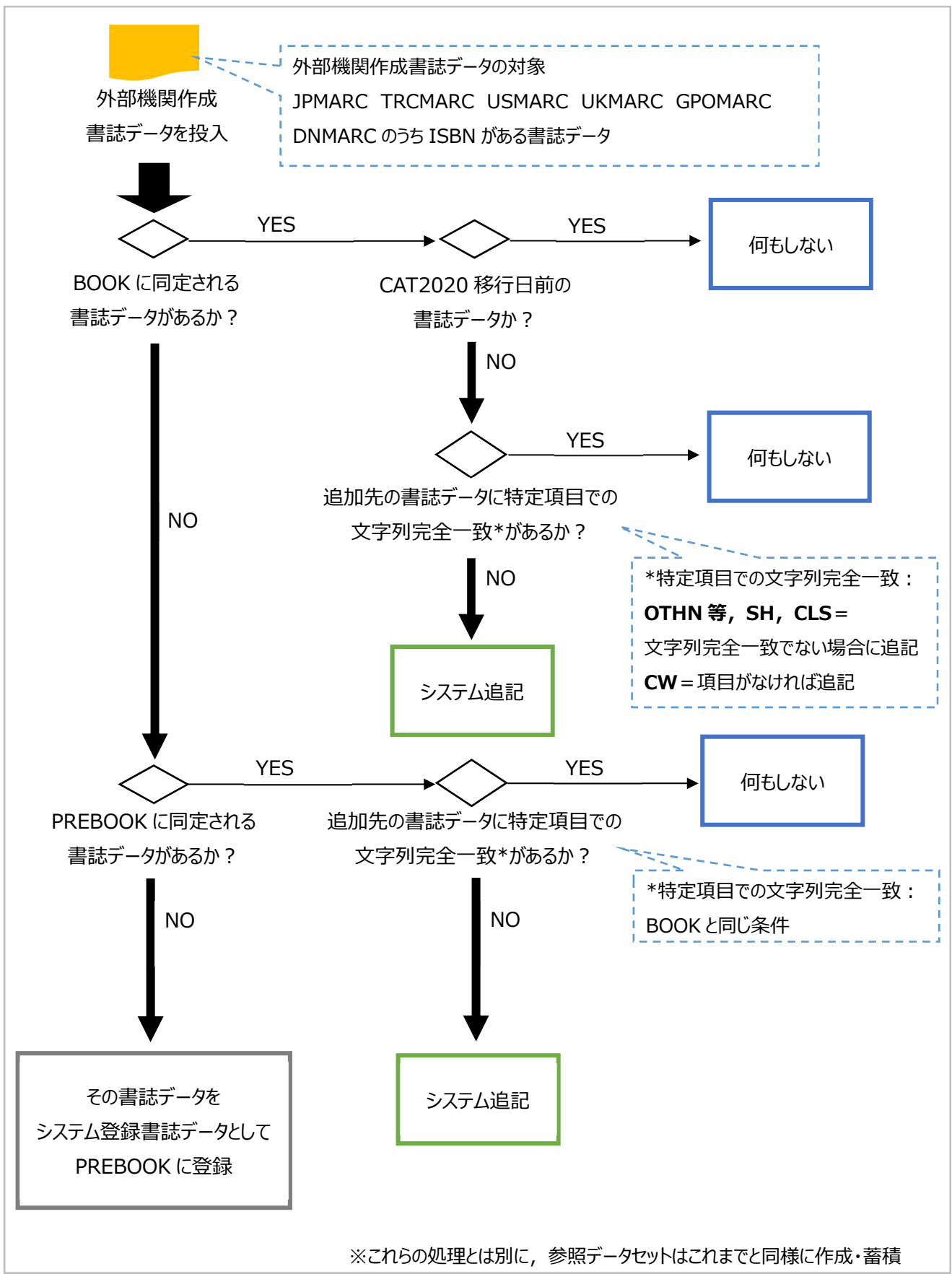


図3 外部機関作成書誌データのシステム投入時における事前処理

3 書誌作成単位

3.1 目的

出版物理単位での書誌作成を行うことによって、機械処理性の向上を図り、また個々の資料に関する記述を可能にする。

3.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降の書誌作成に適用する。

《解説》

適用対象外である CAT2020 移行日前に作成された書誌データについて、遡っての書誌修正作業は実施しない。

3.3 書誌作成単位

3.3.1 固有のタイトル毎に書誌データを作成するという考え方を見直し、出版物理単位での書誌作成を原則とする。

3.3.2 VOL グループの繰り返しの記述を禁止する。

3.3.3 VOL グループの繰り返しの禁止について、一部の例外を認める。

《解説》

これまで「上巻」「下巻」等は VOL グループの繰り返しで表現したが、今後は「上巻」「下巻」という出版物理単位毎にそれぞれ書誌データを作成する必要がある（登録例①参照）。

和漢古書等、一部の資料は、運用上の便宜を図るため、VOL グループの繰り返しでの記述を選択することを許容する。例外の対象となるものは 3.4 に規定する。

CAT2020 移行日前に作成された書誌データが複数の VOL グループを持つ場合、各 VOL に所蔵を登録することができる。また複数の VOL グループのある既存の書誌データとは別に、当該資料の出版物理単位の書誌データを新規に作成し、所蔵登録することもできる（登録例②参照）。

登録例① 上巻が書誌作成済みで、下巻が出た場合の書誌作成の例

<既存書誌データ>

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9
PHYS:689p : 挿図 ; 20cm



既存書誌データはそのまま

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代
訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9
PHYS:689p : 挿図 ; 20cm

既存書誌データへのVOLの追加は禁止

NCID : BB24397861
VOL : 上 ISBN : 9784309728742
VOL : 下 ISBN : 9784XXXXXXXXXX
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 2017.9-
201X.X
PHYS:2冊 : 挿図 ; 20cm

新たに下巻の書誌データを作成

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL : 下 ISBN : 9784XXXXXXXXXX
TR : 源氏物語 / [紫式部著] ; 角田光代訳
PUB:東京 : 河出書房新社 , 201X.X
PHYS:XXXp : 挿図 ; 20cm

登録例② 既存の書誌データとは別に出版物理単位の書誌データを作成する場合の例

1～3巻の書誌データが作成済みだが、出版物理単位の書誌データを別途作成したい場合
<既存書誌データ>

NCID : BB23456789
VOL:1 ISBN:4165102407
VOL:2 ISBN:4165102504
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6-1973.8
PHYS:3冊 ; 20cm



このまま所蔵を登録してもよい。

NCID : BB23456789
VOL:1 ISBN:4165102407
VOL:2 ISBN:4165102504
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6-1973.8
PHYS:3冊 ; 20cm

新たに出版物理単位での書誌データを作成してもよい。

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:1 ISBN:4165102407
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.6
PHYS:518p ; 20cm

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:2 ISBN:4165102504
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.7
PHYS:574p ; 20cm

NCID : XXXXXXXXXXXX
VOL:3 ISBN:4165102601
TR:坂の上の雲 / 司馬遼太郎著
PUB:東京 : 文藝春秋 , 1973.8
PHYS:534p ; 20cm

3.4 VOL グループの繰り返しを例外的に許可する資料について

例外として VOL グループを繰り返して表現してもよいとする資料は、以下のとおりである。

3.4.1 和古書、漢籍、西洋古典籍等、記述対象の資料毎に所蔵館が書誌データを作成し、その書誌データが他館で活用されることを前提としない資料。

3.4.2 多巻物であっても情報源が先頭の巻など 1 か所にしかないマイクロ形態資料。

《解説》

業務の便宜上、上記の資料についてはこれまでどおりの運用を可能とするが、所蔵館の判断により出版物理単位毎に書誌データを作成することもできる。

和古書は江戸時代まで（1868 年以前）、漢籍は辛亥革命まで（1912 年以前）、西洋古典籍はおおむね 1830 年までに書写・刊行された資料とする。

複数巻での発行にもかかわらず書誌事項の情報源が 1 か所にしかない場合は、必要に応じてデータを注記するが、マイクロ形態資料は膨大な多巻物が存在し業務負担が増大するため、VOL グループを繰り返す表現の選択を可能とする。

4 書誌データの新規登録・修正

4.1 目的

この変更は、参加館同士の調整作業をなくし、業務負担を軽減するためのものである。

4.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降の書誌データの新規登録・修正作業に対して適用する。

ただし、PREBOOK の書誌データを修正し、所蔵登録する場合は、ここで記載する内容とは関わりなく、現物をもとに慎重に判断し修正することができる。

4.3 変更点

原則として、CAT2020 移行日前に作成館と協議事項となっていた項目（目録システムコーディングマニュアル 21.1 参照）を持つ目録対象資料は、書誌データの新規登録の対象とする。なお、これによって作成された書誌データは、同一資料に対する書誌データと考えられる場合であっても、並立書誌データとして存在を許容する。

表 2「図書書誌データ修正事項一覧」に従って判断し、既存書誌データの内容と目録対象資料の間の相違点が、「修正不可」に相当する場合は、新規に書誌データを作成する。「修正可」に相当する場合は、修正事項一覧表に従って修正する。

この変更により参加館同士の連絡が不要となるため、CAT2020 移行日以降、レコード調整は廃止する（5 書誌データの品質管理参照）。

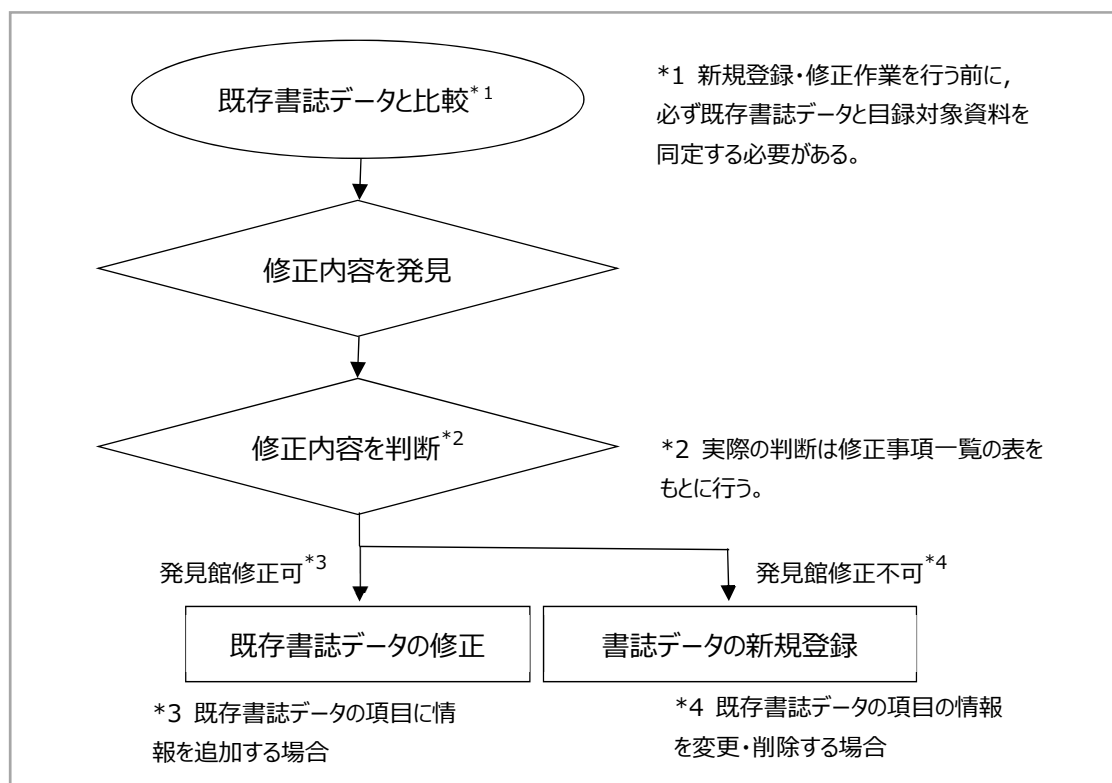


図 4 新規登録・修正作業の流れ図

- 4.4 修正をせずに書誌データを新規登録する場合の注意点
 - 4.4.1 原則として、修正内容が既存書誌データの項目の情報に対して変更・削除を要する場合は、修正ではなく、新規書誌作成の対象とする。
 - 4.4.2 入力レベルが「選択」であるフィールド（およびその内容）の相違だけでは、新規書誌作成の根拠とはならない。
 - 4.4.3 図書書誌データセット中の書誌データの、特定のフィールドの内容の相違のみによって新規書誌データの作成は正当化されず、対応関係の最終的な確認は、当該書誌データ全体および当該目録対象資料全体について行う必要がある。

- 4.5 修正する場合の注意点
 - 4.5.1 原則として、修正内容が既存書誌データへの情報の追加を要する場合は、新規書誌作成ではなく修正の対象とする。
 - 4.5.2 修正を行うことが望ましいのは次の場合である。
 - 4.5.2.1 入力レベルが「選択」である項目に対する情報の記入・追加
 - 4.5.2.2 入力レベルが「必須」であるフィールドで、複数の情報が存在し得るときの2番目以降のデータの記入・追加

- 4.6 例外規定
 - 4.6.1 既存書誌データの項目の変更・削除であっても、次の場合は新規登録ではなく修正を行う必要がある。
 - 4.6.1.1 項目の内容に明らかな誤りがあるとき
 - 4.6.1.2 初刷の情報源による内容修正に伴う、刷の情報の削除
 - 4.6.1.3 PHYS フィールドへ移動された付属資料の物理的事項に関する注記の削除
 - 4.6.1.4 UTL フィールド入力標目の削除
 - 4.6.2 既存書誌データの項目に情報を追加する場合であっても、次の場合は修正ではなく新規登録を行う必要がある。
 - 4.6.2.1 ED フィールドの付加的版表示（副次的版表示）の追加
 - 4.6.2.2 PTBL フィールドの新規追加
 - 4.6.2.3 PTBL フィールドの中位の書誌単位のタイトルの追加

- 4.7 その他
 - 外部機関作成書誌データを事前処理した上で PREBOOK に登録することに伴い、異なる目録規則に基づいた書誌データの存在を許容する。そのため、記述形式についての修正は行わない（例：「pages」を「p.」に修正する等）。

表2 図書書誌データ修正事項一覧

ここでは、図書書誌データセットに登録されたすべての図書書誌データについて、各フィールドごとの具体的な修正事項と、その作業の区分を一覧表に示します。

A [通則]

A1

修正事項には、図書書誌データに対してかかるであろうと予想される修正の内容を列挙しています。

A2

「修正可」とは、修正すべき事項を発見した館が独自に慎重に修正することができるものです。

「修正不可」とは、修正すべき事項を発見した館がデータの修正をせず、新規に図書書誌データを作成するものです。

B [修正事項一覧]

※この表中の用語はCAT2020 移行前の段階のものを使用しています。

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
GMD, SMD	(1) コード表改定に伴う訂正	○	
	(2) 明らかに不正なコードの訂正	○	
	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○	
	(4) 主たる資料種別コードの選択の相違によるコードの訂正		○
	(5) データの削除		○
YEAR, CNTY, TTLL, TXTL, ORGL, REPRO	(1) コード表改定に伴う訂正	○	
	(2) 明らかに不正なコード, データの訂正	○	
	(3) 記録されるべきコードがありながら未記入であるときのデータの追加	○	
	(4) VOLフィールドの追加に伴うデータの訂正 (YEAR, ただし最終巻がない限り刊行終了年は追加できない)	○	
	(5) 目録対象資料が複数言語で記述されている場合のコードの追加	○	
VOL	(1) 装丁に関わる特殊な版表示に関わる語句の追加		○
	(2) ISBNの説明語句の追加	○	
	(3) 区切り記号の訂正	○	
	(4) VOLフィールドのデータが長すぎるときのデータのVOLフィールドからNOTEフィールドへの移動(ただし, 出版物理単位を識別するために必要な情報は残すこと)	○	
	(5) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(6) 書誌単位の取りかたの相違等による個別書誌の統合化		○
	(7) 価格に対する説明語句等の記述を削除する場合	○	
ISBN, XISBN, ISSN	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) 既述されてあるISBN, ISSNをXISBN, OTHNに移動 (最新の値に訂正するか, 既述のものが間違いであったような場合)	○	
	(3) XISBNの追加	○	
	(4) データの削除 (既述のものが間違いであったような場合)	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PRICE	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) 最新の情報を基にしたデータの訂正	○	
NBN, LCCN GPON OTHN, NDLCN	(1) 空値に対するデータの追加	○	
	(2) フィールドの追加 (LCCN, GPONはOTHNに記入)	○	
	(3) 各参照MARC流用時の不適切データの訂正	○	
	(4) データの削除	○	
TR (タイトル)	【子書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	
	(8) 分かち書きの訂正	○	
	※(4)～(8)については, 今まで記述されていた形, 若しくはTRに採用されなかったものはVTに追加して記録することが望ましい		
	(9) タイトル関連情報の追加	○	
	(10) タイトル関連情報のヨミの追加	○	
	(11) 並列タイトル, 並列タイトル関連情報の追加	○	
	(12) データ要素の削除		○
	(13) データ要素の一部をEDに移動又はその逆 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○	
	(14) データ要素の一部をVOLに移動又はその逆 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○	
(15) データ要素の記述順序の並べ替え (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する) 例: 本タイトルの一部としていたものをタイトル関連情報に移動又はその逆	○		
(16) データ要素の一部をNOTEに移動 (ただし, 修正の前の形についてはVTに記述する)	○		

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可	
TR (タイトル)	【親書誌】			
	(1)～(8) 【子書誌】 (1)～(8)と同じ	○		
	(9) データ要素の削除		○	
TR (責任表示)	【子書誌】			
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○		
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○		
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○		
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○		
	(5) 責任表示の追加	○		
	(6) 書誌内容の変更を伴う責任表示の追加		○	
	(7) 責任表示の変更		○	
	(8) 責任表示の削除 (責任表示に何らかの修正が加えられた場合は, ALについてもそれに対応した修正を行う。ただし, 対象となる書誌レコードが複数の出版物理単位から成るとき, それが部編名ごとに異なる責任表示を有する場合は, 別書誌レコードを作成する)		○	
	(9) 並列責任表示の追加	○		
	【親書誌】			
	(1) 責任表示の修正 (ただし, 親書誌レコードにおける責任表示の記入は各参加組織の選択事項である。また, 子書誌全体にかかるもの以外は追加してはならない)	○		
	ED	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
		(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正		○		
(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)		○		
(5) 副次的版表示の追加			○	
(6) 2番目以降の版責任表示の追加		○		
(7) (【洋図書】)並列版責任表示の追加		○		
(8) 省略形と完全形の書き換え		○		
(9) TRからEDへの転記		○		

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
ED	(10) NOTEからEDへの転記 (ただし、装丁に関わる特殊な版表示はVOLに転記する)	○	
	(11) データの削除		○
	(12) (【洋図書】)並列版表示の追加	○	
PUB (出版地・出版者)	【子書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字、翻字、字体の書き換え 例：=→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形からキリル文字への書き換え (ただし、漢字の字体については、転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) 出版地・頒布地、出版者・頒布者、製作地・製作者の追加 (複数の出版物理単位から成る資料で、記述の根拠としなかった巻からの情報を追加してはならない。必要ならばそれらはNOTEに注記する)	○	
	(6) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○	
	(7) 同一国内での出版地・頒布地の書き換え		○
	(8) 互いに異なる国での出版地・頒布地の書き換え		○
	(9) (【洋図書】)目録作成機関の母国に関わる記述を行う場合の第2出版地・第2出版者の追加	○	
	(10) NOTEフィールドに記述されているその他の出版事項のPUBフィールドへの転記	○	
	(11) データ要素の削除		○
	【親書誌】		
	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○		
(4) 外字、翻字、字体の書き換え	○		
(5) 出版者の省略形と完全形の書き換え	○		
(6) 終期を予定しないシリーズものに対する、記述の根拠とした巻より前の巻又は初巻に基づく記述の修正	○		
(7) データ要素の削除		○	
PUB (出版年)	(1) 既に記録されている出版年に対する、その記録が任意である著作権取得年の追加	○	
	(2) 不確定のデータに対する、記述対象資料中の主情報源以外のところからのデータ記入	○	
	(3) 著作権取得年による記述に対する、資料のその版での初刷の年の修正		○

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PUB (出版年)	(4) シリーズ若しくは複数の出版物理単位から成る書誌レコードに対する資料の刊行終了年の追加	○	
	(5) データの削除		○
PHYS	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(3) 記入されていない前付頁等の記述追加	○	
	(4) 記入されていないその他の形態細目の追加	○	
	(5) NOTEフィールドに記録されている付属資料の転記	○	
	(6) データ要素の削除		○
VT	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字の誤りに対する書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	
	(8) 不正なタイトルの種類コードの訂正	○	
	(9) 明らかに誤りであるときの分かち書きの訂正 (ただし, 明らかに誤りであるかどうかははっきりしないような場合は, 検索の便を考慮してフィールドを追加して他の可能性のある分かちによるヨミを追加する)	○	
	(10) フィールドの追加	○	
	(11) 重複しているVTフィールドの調整	○	
※ 原則として明らかに誤りでない限り, データの削除は行わない			
CW	(1) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(2) (1)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(3) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	
	(4) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: =→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(5) ルビの記入	○	
	(6) ヨミの追加	○	
	(7) 明らかに誤りであるときのヨミの訂正	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
CW	(8) 分かち書きの訂正	○	
	(9) フィールドの追加	○	
	(10) NOTEフィールドに記述されている内容注記のCWフィールドへの転記	○	
	(11) データ要素の一部(又はすべて)をTRフィールド若しくはVOLフィールドに転記 (この結果、書誌の重複が発生した場合には重複書誌レコードの報告を行う)		○
	(12) データの削除		○
NOTE	(1) 資料の特性に関する事項についてはTRの(1)～(4)に同じ	○	
	(2) 初刷の情報源によるデータ修正に伴う、刷の情報の削除	○	
	(3) 版の同一性に関わる注記の訂正		○
	(4) VOL分割に関わる注記の訂正	○	
	(5) 出版物理単位、集合書誌単位に対する、記述の根拠としなかった巻号等についての注記の追加	○	
	(6) PHYSフィールドへ移動された付属資料の物理的事項に関する注記の削除	○	
	(7) (1)～(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の追加	○	
	(8) (1)～(6)以外の書誌的事項や資料の内容に関わる注記の削除		○
PTBL (親書誌タイトル等)	1) リンク形成の追加 (ただし、親書誌のTRの修正が正しいものであるかどうかは慎重に検討することが必要)	○	
	(2) フィールドの新規追加		○
	(3) 親書誌レコードのリンク先の変更 (ただし、親書誌の重複に伴う付け替えであるときは発見館で修正可)		○
	(4) フィールドの削除		○
	※ 記述の内容自体については、TRの親書誌の項を参照すること		
	※ PTBLフィールドの構造の種類コードについては各参加館の都合によって自由に書き換えてよい		
	PTBL (番号等)	(1) データの新規追加	○
(2) VOLフィールドの追加に伴う書き換え		○	
(3) (2)以外の理由によるデータの書き換え			○
(4) データの削除			○
PTBL (中位の書誌のタイトル等)	(1) データの新規追加 (ただし、責任表示の追加については、それが中位の書誌レベル全体にかかるもののみである)		○
	(2) データ要素間の不正な区切り記号の訂正	○	
	(3) (2)以外の句読点等の記号の訂正	○	
	(4) 転記の際の単純な記入ミスに対する訂正	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
PTBL (中位の書誌 のタイトル 等)	(5) 外字, 翻字, 字体の書き換え 例: ニ→◆D-----◆への書き換え キリル文字の翻字形をキリル文字になおす書き換え (ただし, 漢字の字体については, 転記の原則に従う方向でのみ書き換えを認める)	○	
	(6) ルビの記入	○	
	(7) ヨミの追加	○	
	(8) 明らかに誤りであるときのヨミの修正	○	
	(9) 分かち書きの修正	○	
	(10) タイトル関連情報の追加	○	
	(11) タイトル関連情報のヨミの追加	○	
	(12) 並列タイトル・並列タイトル関連情報・並列責任表示などの追加	○	
	(13) データの削除		○
PTBL (中位の書誌 の番号等)	(1) データの新規追加	○	
	(2) VOLフィールドの追加に伴う書き換え	○	
	(3) (2)以外の理由によるデータの書き換え	○	
	(4) データの削除		○
AL	(1) 未リンク標目に対するリンク形成	○	
	(2) 未リンク標目の訂正	○	
	(3) リンク先の修正 (典拠レコードのHDNGの修正が正しいものであるかどうかについては慎重に検討することが必要)	○	
	(4) その他の情報の訂正	○	
	(5) 基本記入標目に対する主記入フラグの追加	○	
	(6) 標目のリンク先典拠レコードの変更 (ただし, 典拠レコードの重複に伴う付け替えであるときは発見館で修正可)	○	
	(7) 標目の追加	○	
	(8) 標目の削除		○
	(9) 典拠レコードリンクの解消		○
UTL	(1) 未リンク統一タイトル標目に対するリンク形成	○	
	(2) 未リンク統一タイトル標目の訂正	○	
	(3) リンク先の修正 (典拠レコードのHDNGの修正が正しいものであるかどうかについては慎重に検討することが必要)	○	
	(4) その他の情報の追加・訂正	○	
	(5) 基本記入標目に対する主記入フラグの追加	○	

フィールド名	修正事項 (例示・注意事項)	修正可	修正不可
UTL	(6) 標目のリンク先典拠レコードの変更	○	
	(7) 標目の追加	○	
	(8) 標目の削除 (現在NACSIS-CATでは採用されていない種類の統一タイトル典拠(例:法律書・条約集・原タイトル等)を削除する場合は、発見館で修正可)	○	
	(9) 典拠レコードリンクの解消		○
CLS	(1) 異なる分類表に基づく分類標目の追加	○	
	(2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な重出分類の追加	○	
	(3) コード表又は分類表に照らして明らかに誤りである分類の種類コード又は分類標目の訂正	○	
	※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、標目の削除は行ってはならない		
SH	(1) 異なる件名標目表に基づく件名標目の追加	○	
	(2) 目録対象資料の主題を適切に表現するために必要な件名標目の追加	○	
	(3) コード表又は件名標目表に照らして明らかに誤りである件名標目表の種類コード又は件名標目の訂正	○	
	(4) 更新された件名標目の新しい標目形への訂正	○	
	※ 明らかに誤りである場合を除いては、原則としてデータ、標目の削除は行ってはならない		

5 書誌データの品質管理

5.1 目的

この変更は、業務の軽量化を図りつつ、利用への影響を最小限に抑えるためのものである。

5.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降の書誌データの品質管理に適用する。

5.3 概要

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、参加館同士でのレコード調整は廃止する（4 書誌データの新規登録・修正参照）。

同一の資料に対する複数の書誌データの存在を許容するため、並立書誌データは統合しない。重複書誌データと判断されたものは NII で書誌データの統合を行う。

5.4 参加館同士でのレコード調整の廃止

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、参加館同士でのレコード調整は廃止する。

《解説》

書誌データの新規登録・修正の区分の変更に伴い、発見館修正可の項目は、書誌作成館へ現物の確認を依頼することなく、書誌データを修正し、他の所蔵館への連絡は必要としない。

発見館修正不可の項目に該当する場合は、新規書誌データを作成するものとする。

5.5 書誌データの統合

5.5.1 並立書誌データは、NACSIS-CAT の業務システム上では、統合しない。

5.5.2 重複書誌データは、NII が統合処理する。

5.5.3 和漢古書等、記述対象資料毎に作成する書誌データは、統合しない（これまでと変更なし）。

《解説》

修正不可の項目の異同によって、新規書誌データを作成した場合は、同一資料に対して複数の書誌データが存在することになるが、これは並立書誌データとして存在を許容し、統合しない。

並立書誌データの例

- CAT2020 移行日前に登録された複数の VOL グループを持つ書誌データと、CAT2020 移行日以降に出版物理単位で新しく作成した書誌データ
- 続刊が刊行されたことで、タイトルの一部がシリーズと見なされることになったため、書誌構造を持つ形で新しく作成された書誌データと、当初に作成されていた書誌データ
- ページ数のゆれにより作成された書誌データ（最初に作成された書誌の記述誤りの可能性も含む）

新規書誌作成の基準に照らし、書誌データの内容に全く異なる点が見られない書誌データは、重複書誌データとして、NII が統合処理を行う。また、参加館からの重複報告はこれまでどおり受け付け、内容確認の上、NII が統合処理を行う。NII によって統合された結果は、NII からの書誌データ調整連絡の対象になる。

和漢古書等、記述対象資料毎に作成する書誌データは、これまでと同様、統合しない。

5.6 NII からの書誌データ調整連絡（旧レコード調整連絡）

重複書誌データの統合による所蔵付け替え等、NII からの書誌データ調整連絡については、当分の間、継続する。

6 書誌構造リンク形成

6.1 目的

子書誌データと親書誌データ間の書誌構造リンク形成作業を必須から任意化し、書誌作成作業を軽減する。

6.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降に図書書誌データセットに登録されるすべての書誌データを対象とする。

6.3 概要

書誌構造リンク形成作業を任意化する。また、バランスしない書誌構造は廃止する。
なお、手動によるリンク形成機能は継続して提供する。

6.4 書誌構造の表現

6.4.1 2階層の書誌構造を持つ資料の場合

2階層の書誌構造を持つ資料の場合、出版物理単位（子書誌データ）のデータに、集合書誌単位（親書誌データ）のタイトルを記録する。

6.4.1.1 書誌構造リンクを形成しない場合

親書誌データとのリンクを行わず、PTBLにシリーズタイトルを記述するのみとする。

TR: ルネサンス / 鈴木勤編

PTBL: 世界歴史シリーズ||セカイ レキシ シリーズ < > 第11巻//a

別言語形など、親書誌データの「その他のタイトル」に相当するタイトルを記録する必要があるときは、子書誌データのPTBLフィールドを繰り返して記録する。

TR: ヒンディー語動詞基礎語彙集 / 町田和彦著

PTBL: アジア・アフリカ基礎語彙集シリーズ||アジア アフリカ キソ ゴイシュウ シリーズ < > 33//a

PTBL: Asian & African lexicon <> 33//a

6.4.1.2 書誌構造リンクを形成する場合

従来どおり親書誌データを作成し、リンクを形成することもできる。

6.4.2 3階層以上の書誌構造を持つ資料の場合

3階層以上の書誌構造を持つ資料の場合、出版物理単位（子書誌データ）のデータに、

最上位の集合書誌単位（親書誌データ）のタイトルを記録したのち、中位の書誌階層のタイトル等を記録する。

6.4.2.1 書誌構造リンクを形成しない場合

親書誌データとのリンクを行わず、PTBLにシリーズタイトル等を記述するのみとする。

TR: 古典派の音楽 / フリードリヒ・ブルーム著

PTBL: 白水 U ブックス||ハクスイ U ブックス <> 1025 . 西洋音楽史 / フリードリヒ・ブルーム [著] ||セイヨウ オンガクシ ; 4//ab

6.4.2.2 書誌構造リンクを形成する場合

従来どおり親書誌データを作成し、リンクを形成することもできる。

6.4.3 バランスしない書誌構造を持つ資料の場合

バランスしない書誌構造は廃止する。CAT2020 移行日以降、VOL フィールドが記録され、それに対応する所蔵データが登録された書誌データは、親書誌データとはみなさない。ただし、すでにバランスしない書誌構造を持つ書誌データを親書誌データとしてリンク形成している書誌構造リンクは、このリンク関係を解消する必要はない。書誌構造リンクを形成する場合は、VOL フィールドが記録されたバランスしない書誌構造をもつ書誌データとは別に、新しく親書誌データを作成して書誌構造リンクを形成する（登録例③参照）。

続刊が発刊されたことにより、タイトルの一部が集合書誌単位（親書誌データ）のタイトルとみなされる場合も、所蔵データが登録された既存書誌データは、親書誌データとみなさない。リンク形成を行う場合は、別に親書誌データを作成して、書誌構造リンクを形成する（登録例④参照）。

登録例③ バランスしない書誌との書誌構造リンクは不可の例

同じシリーズの別の資料を新しく登録する場合

<親書誌データ>

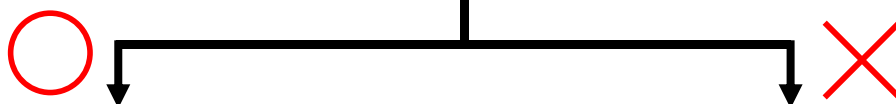
NCID : BN12345678
 VOL : 年表・付図 ISBN : 9784766416417
 TR : オックスフォードブリテン諸島の歴史
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 ,
 2009.6-
 PHYS: 冊 ; 22cm

バランスしない書誌構造を持つ書誌データ
 (CAT2020 移行日前の作成)

<子書誌データ>

NCID : BN12349988
 VOL : ISBN : 9784766416428
 TR : ポスト・ローマ / トマス・チャールズ=エドワーズ
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2015.9
 PHYS: 189p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BN12345678> 第 2 巻// b

CAT2020 移行日前の作成のものはバランスしない
 書誌データとリンク形成してよい。



バランスしない書誌データとはリンク形成を
 行わず、新しく親書誌データを作成する

バランスしない書誌データへの親書誌リンク
 は禁止

NCID : BC11112233
 VOL : ISBN : 9784766416569
 TR : 20 世紀 : 戦後の歴史 / キャスリーン・バーク
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2020.9
 PHYS: 462p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BC11112345> 第 10 巻// b

書誌構造リンクを形成する場合は新しく
 親書誌データを作成する

NCID : BC11112233
 VOL : ISBN : 9784766416569
 TR : 20 世紀 : 戦後の歴史 / キャスリーン・バーク
 編
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2020.9
 PHYS: 462p : 挿図 ; 22cm
 PTBL: オックスフォードブリテン諸島の歴史 || オック
 スフォード ブリテン ショトウ ノ レキシ
 <BN12345678> 第 10 巻// b

NCID : BC11112345
VOL:
 TR : オックスフォードブリテン諸島の歴史
 PUB: 東京 : 慶應義塾大学出版会 ,
 2009.6-

登録例④ 続刊が出たことでタイトルの一部が集合書誌単位のタイトルとみなされる例

<既存書誌>

NCID : BA99887654
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 : 私のイギリス物語 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm

<続刊の発刊でタイトルの一部が集合書誌単位（親書誌データ）のタイトルとみなされる場合>



<子書誌データ>

続刊は、書誌構造リンクを持つ書誌データを作成

NCID : BC12229977
 VOL : ISBN : 9784104752089
 TR : 亡命者の古書店 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2020.9
 PHYS:299p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA12228866> 続// b

NCID : BC12229988
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA12228866> [正] // b

<親書誌データ>

親書誌データを作成

NCID : BA12228866
 VOL : ISBN :
 TR : 私のイギリス物語 / 佐藤優著||ワタクシ ノ
 イギリス モノガタリ
 PUB:東京 : 慶應義塾大学出版会 , 2012-3-
 2020.9
 PHYS:2冊 ; 22cm

←先に出版された巻号について、書誌構造リンクをもつ書誌データを新しく作成してもよい（既存書誌データと並立書誌データとなる）。



既存書誌データを修正して、新しくリンク形成をしてはならない。

NCID : BA99887654
 VOL : ISBN : 9784104752065
 TR : 紳士協定 _____ / 佐藤優著
 PUB:東京 : 新潮社 , 2012.3
 PHYS:315p ; 22cm
 PTBL:私のイギリス物語||ワタクシ ノ イギリス モノ
 ガタリ <BA12228866> [正] // b

7 所蔵登録

図書所蔵データの運用は変更しない。書誌データの作成単位と齟齬のないよう留意する。

8 著者名典拠データと書誌データの自動リンク形成

8.1 目的

外部機関作成書誌データおよび NACSIS-CAT の著者名典拠データに含まれる典拠情報を活用して、NACSIS-CAT 著者名典拠データと書誌データとのリンク形成作業を自動化することにより、書誌作成機能のさらなる合理化を行う。なお、この処理はサーバー側で自動的に行われ、目録担当者の作業は発生しない。

8.2 対象範囲

CAT2020 移行日以降に PREBOOK に登録されるシステム登録書誌データのみを対象とする。

BOOK および参照データセットに存在する書誌データは対象外とする。CAT2020 移行日以降に新規に作成される参加館登録書誌データも対象外とする。

8.3 概要

8.3.1 PREBOOK への登録対象となる外部機関作成書誌データをシステム登録書誌データとして登録する際に、外部機関作成著者名典拠 ID を含む書誌データを抽出する。

8.3.2 バーチャル国際典拠ファイル (Virtual International Authority File : VIAF) に登録された外部機関著者名典拠 ID と照合し、VIAF 上で同一の典拠データとして同定されている NACSIS-CAT 著者名典拠 ID を取得する。

8.3.3 VIAF での照合結果をもとに、PREBOOK の書誌データと NACSIS-CAT 著者名典拠データとのリンク形成処理を行う。

《解説》

著者名典拠の同定の精度を高めるため、以下の条件を満たす外部機関作成書誌データから作成される書誌データが自動リンクの対象となる。

- PREBOOK 登録対象の外部機関作成書誌データであること
- 外部機関作成書誌データに著者名典拠 ID の情報が含まれていること
- 外部機関作成著者名典拠 ID が VIAF に登録されていること
- NACSIS-CAT 著者名典拠データが存在し VIAF に登録されていること

上記以外のシステム登録書誌データや参加館登録書誌データについては、自動リンクの対象とはならない。必要に応じて、手動で著者名典拠データとのリンクを形成する。

8.4 その他

PREBOOK において、明らかに異なる著者名典拠データとリンクしている書誌データを発見した場合は、NII に報告する。発見館からの報告を受けて、内容を確認の上、NII で典拠データリンクの解消等の対応を行うとともに、自動リンクの精度向上に活かすこととする。

9 並立書誌データの関連付け

9.1 目的

書誌管理作業の軽量化のために存在を許容する並立書誌データについて、機械処理により相互に関連付けることで、NACSIS-ILL等の書誌利用におけるユーザビリティを担保する。

9.2 対象範囲

BOOKにある書誌データを対象とする。ただし、CAT2020移行日前に登録された書誌データ同士の関連付けは行わない。

9.3 概要

BOOKにおいて書誌データを登録または更新する際、別途定める並立書誌判定ルールを用いて当該書誌データの並立書誌データを判定し、並立書誌データ同士と判定された書誌IDをRELATIONテーブルに登録する。NACSIS-ILLやCiNii Books等の書誌利用においてRELATIONテーブルを活用することで、並立書誌データ同士をグループ化した形や関連付けた形で表示することができる。

《解説》

参加館同士でのレコード調整廃止に伴い、並立書誌データが増えることが予想され、ILL業務の際に書誌同定に負担がかかるのではないかと懸念されていた。RELATIONテーブルは、それへの対策となる。

RELATIONテーブルは雑誌の変遷マップと同様の概念で、書誌データの統合は行わない。また参加館からの報告を受けて書誌データ同士の関連をRELATIONテーブルに反映する方法も準備する予定である。

NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（用語集）改訂版（2018年10月19日）

※用語の五十音順に掲載しています。

※定義は、「これからの学術情報システム構築検討委員会」による、NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化の議論の中での語の使い方を示しています。

No.	用語	定義
1	BOOKデータセット	現行のNACSIS-CAT 図書書誌ファイル（BOOK）。PREBOOKデータセット（参照：用語集2）とともに、CAT2020移行日以降の図書書誌データセット（参照：用語集34）を構成する。システム登録書誌データ（参照：用語集18）のうち、所蔵が登録された書誌データの登録先となる。
2	PREBOOKデータセット	システム登録書誌データ（参照：用語集18）のうち、所蔵が登録されていない書誌データのデータセット。ILLなど、書誌利用時には非表示となる。
3	RELATIONテーブル	自動同定（参照：用語集21）の結果得られた、並立書誌データ（参照：用語集36）のグループとしてのまとまりを管理するためのテーブル。
4	VIAF	The Virtual International Authority Fileの略。 OCLCが維持管理する、複数の国立図書館と地域的、国際的図書館関係機関による共同プロジェクト。典拠ファイルをマッチングおよびリンクをし、ウェブ上で利用可能な情報を作成している。 (https://viaf.org/ 2018/3/26閲覧)
5	Z39.50接続	NACSIS-CAT上にデータが蓄積されている通常の参照ファイルと異なり、Z39.50プロトコルを利用した接続。参加館が検索する都度、外部機関が提供するサーバへ接続してデータを取得し、利用している。NACSIS-CAT固有の書誌IDが無く、検索のたびに書誌IDが変わる。
6	外部機関作成データ	NACSIS-CAT以外の機関が作成した書誌データ、著者名典拠データ、統一書名典拠データ。 (詳細: http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html 2018/3/26閲覧)
7	機械処理性	人的作業ではなく、最新の技術を用いて機械的に処理する作業の効率性。
8	既存情報源	出版社や外部書誌作成機関などNACSIS-CAT以外の情報源。
9	既存書誌データ	新規登録、修正等の作業時に、図書書誌データセット（参照：用語集34）中にすでに存在する書誌データ。
10	軽量化	図書館の書誌作成・管理作業や、利用者の書誌利用環境を最適化し、効率化すること。
11	現行分参照MARC	CAT2020移行日前まで参照ファイルとして提供されていた外部機関作成データ。
12	合理化	機械処理への移行、外部との連携強化など、現在の技術に適応したシステムの再設計のこと。
13	コピー	一般的な複製の意。現行NACSIS-CAT内での「COPY」の範囲に留まらない。

No.	用語	定義
14	参加館登録書誌データ	CAT2020移行日以降に、新規登録やコピー（参照：用語集13）による登録により参加館が作成する書誌データ。
15	参照データセット	外部機関作成データ（参照：用語集6）のうち、目録システム用にMARCを変換したデータセット。現行のNACSIS-CATにおける「参照ファイル」。
16	システム追記	外部機関作成データ（参照：用語集6）のシステム登録（参照：用語集17）時に、OTHN, NBN, LCCN, GPON, SH, CLSの各項目について、文字列完全一致で比較し、同じものがなければフィールドを追加し、データを記入すること。
17	システム登録	外部機関作成データ（参照：用語集6）を、図書書誌データセット（参照：用語集34）や著者名典拠データセット（参照：用語集28）にあらかじめ機械的に登録すること。
18	システム登録書誌データ	外部機関作成データ（参照：用語集6）のうち、図書書誌データセット（参照：用語集34）にあらかじめ機械的に登録された書誌データ。このうち所蔵が登録されたシステム登録書誌データは、BOOKデータセット（参照：用語集1）に登録され、所蔵が登録されていないシステム登録書誌データは、PREBOOKデータセット（参照：用語集2）に登録される。
19	システム登録における事前処理	外部機関作成データ（参照：用語集6）を、図書書誌データセット（参照：用語集34）にあらかじめ機械的に登録する際に行うクリーニング（フィルタリング、システム追記（参照：用語集16））処理。
20	自動所蔵登録	各図書館等の所蔵データを自動的に登録するシステムを用いて、参加館の所蔵レコードを一括登録・更新すること。
21	自動同定	タイトルや出版社など、データの主たる項目を比較し、同一資料を表現していると判断される並立書誌データ（参照：用語集36）について、グループとしてのまとまりを作る機能。グループとしてのまとまりは、RELATIONテーブル（参照：用語集3）を用いて管理する。
22	自動リンク	人的作業ではなく、ID等によって機械的にリンク形成作業を行うこと。
23	書誌構造リンク	シリーズ名などの書誌階層がある場合の、親書誌データと子書誌データのデータ間リンクのこと。
24	書誌作成システム	現行のNACSIS-CATなど、書誌を作成するために必要なシステム。また作成の仕組み。
25	書誌利用システム	現行のNACSIS-ILLやCiNii Booksなど、書誌作成システムで作成された書誌データを利用するシステム。また利用の仕組み。
26	相互運用	外部機関作成書誌データをNACSIS-CATで活用すること。また、NACSIS-CATで作成したデータが外部機関で活用されること。
27	重複書誌データ	同一資料に対して複数作成された書誌データ。書誌の同定に必要な項目が全く同一であり、統合（参照：用語集33）の対象となる。

No.	用語	定義
28	著者名典拠データセット	現行の著者名典拠ファイル (NAME)。
29	データ	現行の「レコード」。例) 図書書誌レコード→図書書誌データ
30	データセット	現行の「ファイル」。例) 著者名典拠ファイル→著者名典拠データセット
31	データベースフィールド定義	データを入力する際のフィールド名やフィールド内でのデータの扱い方、入力方法、計算方法、保存方法、表示方法などのこと。
32	統一書名典拠データセット	現行の統一書名典拠ファイル (TITLE)。
33	統合	重複書誌データ (参照：用語集27) を一つにすること。
34	図書書誌データセット	現行のNACSIS-CAT 図書書誌ファイル (BOOK) に、PREBOOKデータセット (参照：用語集2) を加えたデータセット。CAT2020移行日以降の図書書誌データセットには、CAT2020移行日前までに登録された書誌データ、システム登録書誌データ (参照：用語集18)、参加館登録書誌データ (参照：用語集14) が含まれる。
35	フィールド	現行の「フィールド」。用語を変更しない。
36	並立書誌データ	同一資料に対して複数作成された書誌データ。CAT2020移行日前までの基準において、「作成館との協議事項」に該当する書誌事項の相違などが存在するため、統合 (参照：用語集33) の対象とならない。 (参照： http://catdoc.nii.ac.jp/MAN2/CM/21_1.html 2018/9/20閲覧)
37	メソッド等	CATP内で使用する「GETHANDLE」, 「SEARCH」などのこと。